

翻訳にあたってのヒント

その 46

色にちなんだいろいろな英語

第 3 回

● Orange

正月に飾られているみかんは、その色である「橙（だいたい）」を「代々」にこじつけためでたい果物として飾られているようだ。こじつけであることから、こういった慣習は日本独自のものであるため、英語の **orange** にはこうしためでたさの意味はない。ちなみに、日本工業規格では蜜柑（みかん色）とオレンジ色に少し差がつけてあり、みかん色のほうがやや明るく鮮やかでかつ赤みが強い色となっている。「みかん」をはじめ、「夏みかん」「きんかん」「ゆず」「かぼす」「すだち」「はっさく」「いよかん」「ポンカン」「デコポン」等の国産品のほか、外来種では「バレンシアオレンジ」「レモン」「グレープフルーツ」「スウィーティー」といったいろいろな柑橘類も日本には出回っているが、その原産地はインド東部から中国にかけての地域であるそうで、日本における橙、つまりみかん (**sour orange, mandarin orange, tangerine**) の歴史は古く、少なくとも、アメリカの **sweet orange** (いわゆるオレンジ) のほうが後進であるそうである。

オレンジにまつわる話で異彩を放っているのは、**Orange** 家 (オランイエ家) に関する話だ。オランイエ家は、元々ドイツの貴族であったのだが、南仏のオレンジ地方そしてのちにオランダの総督や王位についた家名である。フランス国旗と混同しかねない赤白青からなるオランダ国旗は、こうした 3 色旗の原型であるようだ。さらに、その中の赤はかつてはオレンジ色であったという。しかも、このオレンジ色は 1568 年～1609 年にかけてのスペインからのオランダ独立戦争の最中、1581 年に独立宣言を發したオレンジ公ウイリアムに由来するという逸話もあるほどだ。どうりで、オランダ選手がオリンピックやワールドカップでオレンジ色を交えたユニフォームを着用しているわけだ。

オレンジを使った英語はあまり発見できなかったが、以下をあげておく。

- **compare apples and [with] oranges** 「(無意味に) 全然似ていない [比較対照にならない] ものを比べる」
- **It is (all) Lombard Street to a China orange that ...** 「きっと～だ」

◆ 豆知識

国旗にオレンジ色を使っている国は、インド、スリランカ、ブータン、アイルランド、バルバドス、コートジボアール、ザンビア、ニジェール。

以上これにて、第 46 回目完了。